平成２０年４月１１日

病害虫情報　No.1

茨城県病害虫防除所

麦類赤かび病の防除を必ず実施しましょう！

【防除適期：大麦＝穂揃期，小麦＝開花期（出穂後7～10日）】

[現在の状況]

① 農業研究所における麦類の出穂予測では，小麦（農林 61 号）で 2～4 日遅くなると予想され（表 1 参照），また，六条大麦（カシマムギ）は，11 月上旬播きで平年より 2～3 日早まると予想される。ただし，播種期や圃場条件の違いなどにより，生育にばらつきが見られるので，麦の生育状況をよく確認する。

② 向こう 1 か月の気象予報（4 月 11 日発表）によると，気温は高く，降水量は平年並か多いと予想されている。

表1　小麦（農林61号）の予測出穂期（農業研究所　3月28日現在）

播種期	水戸市		龍ヶ崎市	
	本年（予測値）	平年値	本年（予測値）	平年値
11月上旬	**4／28**	4／29	**4／21**	4／20
11月下旬	**5／ 5**	5／ 3	**4／28**	4／25

[防除対策]

① 本病原菌は，麦の開花期から 10 日程度の間が最も感染しやすい。この期間に降雨が続き，気温が 20℃以上になると本病の発生が多くなるので，今後の気象に十分注意し，防除を徹底する。

② 防除適期は，大麦では穂揃期，小麦では開花期（出穂後 7～10 日）である。麦の生育状況を正確に把握して，表 2 を参考に適期に必ず薬剤散布を行う。

③ 1 回目の薬剤散布後，発病の好適条件が続く場合は，7～10 日後に 2 回目の散布を行う。ただし，出穂期以降 1 回しか使用できない薬剤（トップジンMゾル，トップジンM水和剤，ベルクート水和剤，ベフラン液剤 25，チルト乳剤 25）があるので注意する。

表 2　赤かび病に登録のある主な薬剤（平成 20 年 4 月 9 日現在）

散布方法	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 -本剤の使用回数	対象 作物	有効成分
無人ヘリ	トップジンMゾル	8 倍	14-3(出穂期以降は 2)	小麦	ﾁｵﾌｧﾈｰﾄﾒﾁﾙ
		4 倍	30-3(出穂期以降は 1)	麦類 (小麦を除く)	
	チルト乳剤 25	8 倍	7-3	小麦	ﾌﾟﾛﾋﾟｺﾅｿﾞｰﾙ
			21-1	大麦	
地上散布	トップジンM水和剤	1,000～1,500 倍	14-3(出穂期以降は 2)	小麦	ﾁｵﾌｧﾈｰﾄﾒﾁﾙ
			30-3(出穂期以降は 1)	麦類 (小麦を除く)	
	ベルクート水和剤	1,000～2,000 倍	21-3(出穂期以降は 1)	小麦	ｲﾐﾉｸﾀｼﾞﾝ
	ベフラン液剤 25	1,000～2,000 倍	14-3(出穂期以降は 1)	小麦	
	ストロビーフロアブル	2,000～3,000 倍	14-3	麦類	ｸﾚｿｷｼﾑﾒﾁﾙ
	チルト乳剤 25	1,000～2,000 倍	3-3	小麦	ﾌﾟﾛﾋﾟｺﾅｿﾞｰﾙ
		1,000～2,000 倍	21-1	大麦	
	コロナフロアブル	400 倍	―-5	麦類	硫黄

※ ベルクート水和剤またはベフラン液剤 25 は，いずれか 1 回の使用となります。

※ 農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認のうえ使用してください。
また，薬剤散布の際は，周辺作物等への飛散（ドリフト）に十分注意してください。